

西之島の火山活動解説資料（平成 29 年 10 月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

3日及び7日に実施した第三管区海上保安本部による観測では、噴火は認められませんでした。西之島では、8月11日以降山頂火口からの噴火は確認されていません。しかし、噴火活動が2013年から2015年まで継続した後、休止期間を挟んで2017年4月に再開した経緯を踏まえると、今後も噴火が再開する可能性が考えられます。火口から概ね1.5kmの範囲では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

平成29年4月20日に火口周辺警報（入山危険）及び火山現象に関する海上警報を発表しました。その後、警報事項に変更はありません。

活動概況

・噴火の発生状況（図1～3）

3日及び7日に第三管区海上保安本部が上空からの観測を実施しました。

島の中央部やや南に位置する火砕丘の山頂火口では、山頂火口の内壁から白色の噴気が上がっていましたが、噴火は認められませんでした（図1）。

7日の観測では、溶岩流先端の白色蒸気及び海岸線の顕著な高温部は認められず、溶岩流の海への流入は止まったままであると考えられます（図2）。

島の沿岸には、薄い青白色または薄い黄緑色の変色水域が分布していました（図3）。

・西之島付近の地表面温度（図4）

気象衛星ひまわりの観測によると、西之島付近の地表面温度は2017年7月頃から徐々に低下し、8月頃からは周囲とほとんど変わらない状態となっています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

この資料は、海上保安庁、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、東京大学地震研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『電子地形図（タイル）』『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平26情使、第578号）。



10月3日



10月7日

図1 西之島 島中央部やや南に位置する火砕丘の火口内壁にみられる白色噴気
・白色噴気は、火口の東側内壁と西側内壁から上がっていました。

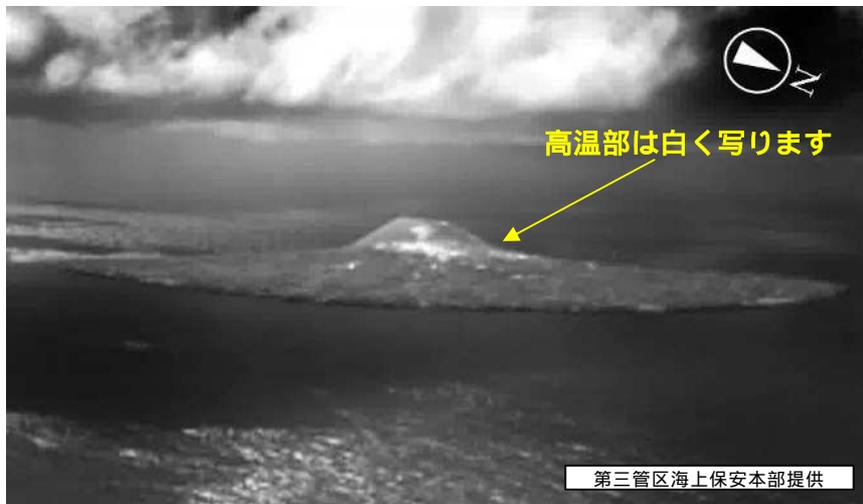


図2 西之島 島全体の熱画像（10月7日）
・溶岩流の先端や海岸線に、顕著な高温部は認められませんでした。



図3 西之島 変色水域（10月7日）
・西之島の沿岸に、薄い青白色または薄い黄緑色の変色水域が分布していました。

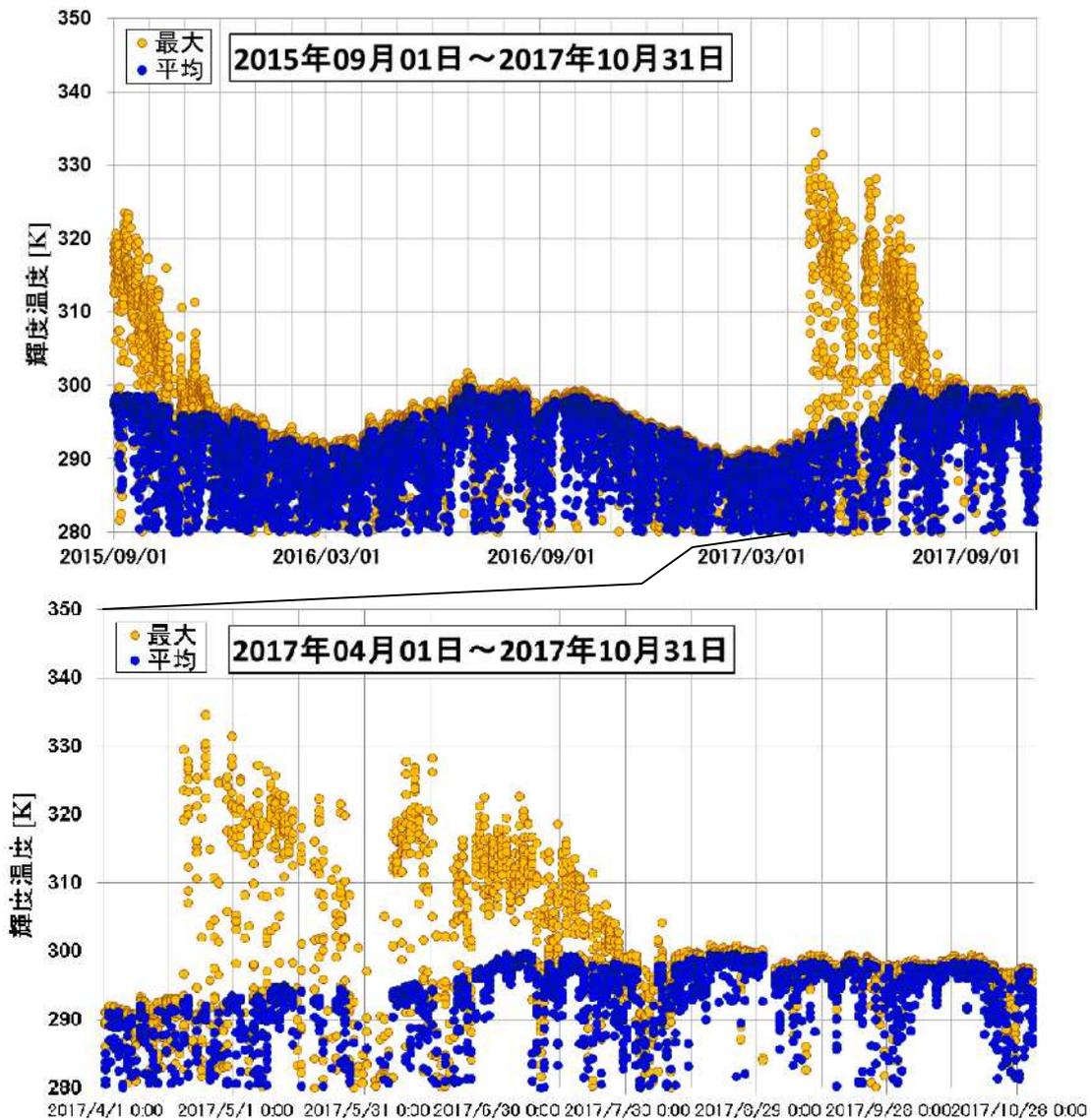


図4 西之島 ひまわり 8号の観測による西之島付近の輝度温度の変化
(輝度温度は中心波長3.9 μ m帯による観測)

西之島を含む概ね30km四方の領域内の輝度温度の、最大値(黄)と平均値(青)を示しています。日射による影響を考慮し、夜間の観測値のみ解析しています。
輝度温度の最大値が平均値よりも有意に高い場合、対象とする領域の地表面温度が高いと判断することができます。

- ・西之島付近の地表面温度は2017年7月頃から徐々に低下し、8月頃からは周囲とほとんど変わらない状態となっています。